

研究テーマ 「希望研修を学校づくりに活用する OUTPUT のあり方」
～小学校外国語活動・外国語を窓口にして～

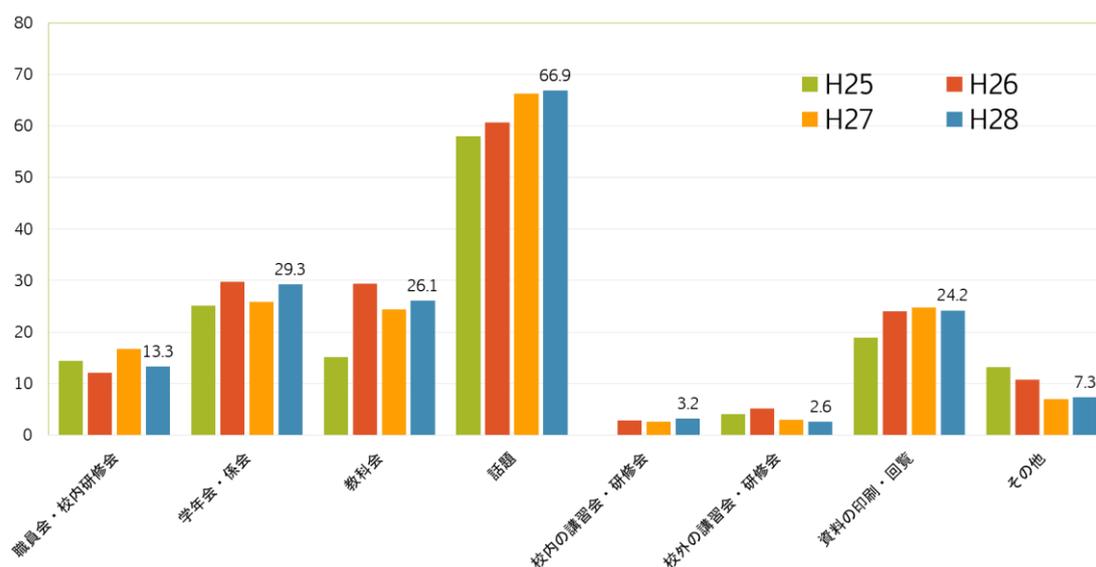
研究者 教科教育部 専門主事 高橋 廣貴 小野澤 健 藤田 洋子
牛山 真弓 志摩 宏道

研究協力校 安曇野市立豊科北小学校 松本市立旭町小学校
松本市立明善小学校

1 研究テーマ設定の理由

総合教育センター等の希望研修講座で得た成果を同僚に広めていくことで、研修の成果が何倍にも広がっていくことが期待される。しかし、実際はどのように広めていったらよいのかわからなかったり、伝達する時間がとれなかったりして、資料の回覧のみで終わっている場合が多いと考えられる。

下のグラフは、平成 28 年まで行われていた講座受講者追跡調査の質問事項「研修内容をどのように校内および職員間で共有（報告等）しましたか」に対する回答である。講座での研修内容が学校内で共有されることに課題があることが読み取れる。



そこで、希望研修で学んだことを校内研修や授業で実践したいという先生の OUTPUT をサポートすることを通して、研修での学びを現場の実践へとつなぐ手立てを探りたいと考えた。

その際、2020年度から小学校の高学年で外国語が教科になり、中学年で外国語活動が全面実施となることを踏まえ、専門主事の要請が多い小学校外国語活動・外国語を窓口を考えることとした。

2 研究方法と研究内容

(1) 研究方法

センター希望研修や市町村研修などを受講し、研修で学んだことを校内で広めようという希望をもっている先生をセンターの主事が支援し、校内研修を一緒に行ったり、研修の様子を後日分析したりすることを通して、センター研修が校内研修や個々の授業に広がっていくための要因を探る。

(2) 研究内容

①協力校の取組の様子

・松本市立旭町小学校

旭町小学校の外国語教育主任の先生は、「子どもたちが力をつけられる外国語活動がしたい」、「担任が行う外国語活動の授業に対して不安を持っている同僚の先生方に、少しでも不安を解消してほしい」と願い、以前、センターの外国語活動・外国語研修講座を受講したA先生と専門主事が一緒に行う校内研修会を企画した。

校内研修会では、最初は牛山専門主事がリードし、徐々にA先生に主導権を移していく。研修が進むにつれて、参加した同僚の先生方の笑顔も広がっていった。研修を通してA先生を笑顔で支える同僚の先生方の姿があった。

校内研修を受けたB先生は、校内研修で学んだことを日々の授業で実践し、授業公開を行った。そこには、笑顔で外国語活動の授業を行うB先生と、安心感をもって活動にのめり込む子どもたちの姿があふれていた。

旭町小学校には、センター研修講座を受講した先生を支えながら学び合う同僚の先生方、同僚の先生方から学んだことを教室の子どもたちへつなげていく先生方、そして、研修を通して、学校全体の外国語の授業力を高めようと願うリーダーが活躍できる学校文化があった。

・安曇野市立豊科北小学校

研究主任を任されたC先生は、校内の外国語活動の授業を活性化させたいという願いを持って、総合教育センターの外国語活動・外国語の研修講座を受講した。1つでも多くの事を学び、同僚の先生方に伝えたいという思いで積極的に取り組んでいるC先生の姿がセンター研修講座であった。

帰校後、職員会が始まる前の時間を活用して、ミニ研修会を行うことを計画した。ミニ研修会は、企画はC先生が中心となり、講師は外国語活動・外国語研究グループの先生方が輪番で行うこととした。時間は10分程度で、今までやってきた実践や得意なアクティビティを紹介してもらうこととした。1回だけの研修で終わらせるのではなく、継続して行うことを大切に行ってきた。

C先生は「英語に触れる機会が増えたり、授業で活用できるアクティビティを学んだりする機会を先生方に提供できました。なにより、研修をとおして場が和み、職員間の横のつながりができたことが大きな成果です」と語ってくれた。

豊科北小学校には、笑顔あふれる校内ミニ研修と、知恵と工夫と仲間との協力を支えに、マネジメント力を存分に発揮するミドルリーダーの姿があった。

・松本市立明善小学校

英語力には自信がない。今までALTに任せることの多かった外国語活動の授業を担当主導で行うにはどうしたらよいのだろう。そんな悩みをもった明善小学校のE先生は、担任主導の外国語活動のイメージをもつため、牛山専門主事とともに教室で授業を行った。授業が進むにつれ、体から固さが抜け、子どもの中に溶け込みながら外国語活動の授業を行うE先生の姿があった。

牛山専門主事と一緒にいった授業から自信を得たE先生は、自分がメインとなってALTと一緒にいった授業を計画し、実施した。教職員研修会サポートで学んだことや牛山専門主事との実践を通して体で感じたことを発揮し、ALTをリードする形で授業を行った。張りのある声と子どもを包み込むような笑顔からは、担任として外国語活動を行っている満足感と自信があふれ出ていた。

明善小学校には、研修を通して自らの技量を高めるため努力を積み重ねる教師の姿、子どもの学ぶ姿から担任主導で授業を行うことの本当の意味を実感した教師の姿、そして協力して研究をすすめるチームワークがあった。

②研究協議会

研究協議会では、研究してきた内容を伝えることと同時に、研修での学びをどのようにして校内に広げていくかを参加した先生が考えることを大切に

した展開を考えた。

最初に、外国語研究グループのリーダーとして校内の外国語活動・外国語を活発にしたいという願いを持っているという役割設定をし、外国語活動・外国語のミニ講座を受講してもらった。



ミニ講座後、4人でグループを作り、「ミニ講座で学んだことをどのようにして校内の先生方に伝えるか」というテーマで、付箋と模造紙を使ってアイデアをまとめた。その際に、期待できる効果と予想されるハードルについても記述してもらった。



その後、協力校の取組について主事から紹介し、再び付箋を使って「研修での学びを自校で広めるために、あなたはどんな一歩を踏み出せそうですか？」というテーマで、各自、自校の実態を踏まえて考える時間をとった。



研究協議会后、参加した教職員歴17年目の中堅の先生は、「研修や研究で学んだことをどのようにして他の先生に伝えていくかが私の課題でした。今日の分科会に参加し、その方法が見えてきました。帰校したら、図画工作の授業で困っている先生を助けたいです」と語った。協議会を通して課題の解決方法と具体的な手立てをイメージできたようである。

研究協議会后、参加した教職員歴17年目の中堅の先生は、「研修や研究で学んだことをどのようにして他の先生に伝えていくかが私の課題でした。今日の分科会に参加し、その方法が見えてきました。帰校したら、図画工作の授業で困っている先生を助けたいです」と語った。協議会を通して課題の解決方法と具体的な手立てをイメージできたようである。

教職員歴2年目の先生は、「今まで遠慮していたけど、やってみたいことがあるので、帰ったら教頭先生に相談してみます。協議会では、私の話をうなずいて聴いてもらって嬉しかったです」と語った。協議会を通して考えや思いを共感し聴いてもらうことで、学校作りに踏み出していく勇気を得たようである。

3 成果と課題

(1) 成果

協力校で行われてきた校内研修の様子を分析したり、研究協議会で参加者に校内での研修のあり方を考えてもらったりしたことから、センターの研修を校内研修につなげ、さらに学校作りにつなげていくための方法として、以下のようなことが示唆された。

① 体験

○研修で学んだことを報告するだけでなく、実際に体験してもらうことで研修での学びが広まる。

② マネジメント

○ミドルリーダーのマネジメントが最初の一步になる。

③ チーム学校

○授業をお互いに見合い、気軽に意見交換できる風通しのよい職員集団が研修を支え、研修を動かす原動力になる。

○チームとして取り組んだり、専門主事を活用したりして協働的な研修会にすることで、先生方の負担が軽減され、不安が解消する。

○校内研修を通して、チーム学校としての職員集団力も向上していく。

④ 校内研修を意識したセンター研修

○抽象的でなく、より具体的な研修内容にすることで、研修での学びが校内で広がっていく。

(2) 課題

① 外国語活動・外国語を窓口として調査研究を行ったが、他教科の希望研修でも実践し、センター研修を校内研修に結びつけ、学校作りにつなげていくための、より汎用性のある方法を明確にしていく必要がある。

② 研修講座が校内研修につながった事例を講座内で紹介するなど、校内における研修の学びの広がりを意識した講座構成をしていく必要がある。